

# 『防衛事務次官冷や汗日記』 を読んで

元門司税関長

広田 恭一

いささか旧聞に属するが今年の1月15日に黒江哲郎著『防衛事務次官冷や汗日記』（朝日新書、本体価格850円）という興味深い本が出版された。著者の黒江哲郎氏は1958年山形県に生まれ、東京大学法学部を卒業後81年防衛庁（当時）に入庁、防衛政策局長、運用企画局長、大臣官房長、防衛政策局長を経て2015年防衛事務次官に就任、17年に退官した人物である。本書は著者のパーソナルヒストリーに防衛政策史をからめながら記述するスタイルを取る。

まず最初に、著者が防衛庁に入るに当たって重大な困難が生じた。1926年生まれの著者の父親が強硬に反対したのである。父親自身に軍隊経験はなかったが、いわゆる軍事

アレルギーの人物で息子の入庁に理解を示さなかった。山形歩兵第32聯隊が沖繩戦で壊滅的打撃を受け多くの戦死者を出したこともその判断に影響を及ぼしていたのかもしれない。著者は父親を説得できず勘当されたが、敢然と入庁した（父親とは後日和解）。

著者は入庁後30歳代で出会った島山蕃氏（大蔵省当時）からの出向者に大きな影響を受けた。島山氏は「自分は大阪省から来て防衛に関する知識が乏しいので、自分の発言に素直に従われるとかえって不安になる。反論してくれる方がありがたいのでどんどん議論してくれ」と言い、年次や年齢に拘泥せず多くの人の意見を分け隔てなく聞いた。著者はそんな同氏の姿勢に深い感銘を受けた。島山氏は次官在任中体調を崩し、退官直後死去したが、弔問に駆け付けた病院で著者は涙が止まらなかったという。

さて、課長級（90年代終盤から00年代後半）になると、9・11同時多発テロやイラク戦争、北朝鮮のミサイル発射等の対応に忙殺された。イラク戦争後の復興支援のため自衛隊がムサンナ県に派遣されたが、同県

撤収後バスラ地区に再展開するプランがあり著者が視察していたという余り知られていない話も掲載されている。

更に、防衛政策局長時代は民主党政権で「世界一になる理由は何？ 2位じゃダメなんでしょか？」という発言で有名な事業仕分けに臨んだ。特に弾道ミサイル防衛システムPAC3の整備について著者は小細工をせずに直球勝負で、北朝鮮の脅威に対処する必要性（今年じゃなきゃダメな理由）を述べ事なきを得た。

次の局長級及び事務次官時代は平和安全法制の成立など労苦は絶えなかったが経験値で勝負し乗り切った。そしてハッピーリタイアメントとなるはずであったが、最後に思わぬ落とし穴が待っていた。どんな落とし穴であったかは本書をお読みいただくとして、さはさりながらまずまずのところ余力を残し第一の人生を終えた。著者は國分良成防大校長（当時）の「もう一度人生を送れるとしたらどんな職業を選ぶか」の問いに対し、即答はしなかったが「やはり防衛省の役人を選ぶ」と結論付けている。

ところで、評者（広田）が本書に着目するのは、どの世界でも通用するであろう著者の処世訓とも言うべきものが盛り込まれていることである。具体的には相手の話を引き出す時の「さしすせそ」である。さすがですね、知りませんでした、凄い（素晴らしい）ですね、センスありますね、そうなんですか、を多用すると

話が円滑化するそうである（著者はこれはテレビ記者の受け売りと言うが）。逆にまずいのはD言葉、「だから」「ですから」で、これらは相手を小馬鹿にしているようでしくじる事が多いと言う。また、仕事の要諦は3KとPKOだそうである。3Kとは企画、紙（説明資料）、共感を得ることである。相手の共感を得るためには特に切り口、速球投手が変化球を交えるようにメリハリを付けることが必要とのことである。次にPKOとはプロフェッショナルリズム、Kは3つに分かれ（責任を負う）覚悟、（逃げない）気概、（喧嘩も辞さない）心意気、そしてOは思いやりである。著者はこのようなスタイルで仕事をして来たが、15年に子息の結婚式で出会った祝婚歌（著者と

同郷の吉野弘氏作）という詩の一節に我が意を得たりと膝を打ったという。

正しいことを言うときは

少しひかえめにするほうがいい

正しいことを言うときは

相手を傷つけやすいものだと

気付いているほうがいい

最後に本書は内容的には複雑・高度な部分もあるが「ですます調」で書かれ文章は平明で読み易い本である。ご一読をお勧めしたい。

とは企画、紙（説明資料）、共感を得ることである。相手の共感を得るためには特に切り口、速球投手が変化球を交えるようにメリハリを付けることが必要とのことである。次にPKOとはプロフェッショナルリズム、Kは3つに分かれ（責任を負う）覚悟、（逃げない）気概、（喧嘩も辞さない）心意気、そしてOは思いやりである。著者はこのようなスタイルで仕事をして来たが、15年に子息の結婚式で出会った祝婚歌（著者と同郷の吉野弘氏作）という詩の一節